

【有償配布 や Web(ホームページ, ブログ, facebook等)へのアップロード・転載はお止めください】

【リンクはご自由にお貼りください】

「結婚の自由をすべての人に」九州訴訟(福岡地裁)第7回期日(20220210)提出の書面です。

令和元年(ワ)第2827号、令和3年(ワ)第447号

「結婚の自由をすべての人に」訴訟事件

原告 原告番号1(こうすけ)、原告番号2(まさひろ) 外4名

被告 国

証拠説明書19(甲A号証)

福岡地方裁判所 第6民事部合議B係 御中

2022(令和4)年1月31日

原告ら訴訟代理人 弁護士 石井 謙一

同 弁護士 森 あい

ほか22名

号証 (甲A)	標目	原本写 しの別	作成年月日	作成者	立証趣旨
462	意見書	写し	2021年10月16日	日高庸晴	日高庸晴宝塚大学看護学部教授作成の意見書。 数量的解析により本件規定の存在により同性愛者等の尊厳を著しく毀損していること等を明らかにしている。 なお、本意見書引用文献6「ゲイ・バイセクシュアル男性の健康レポート2015」は、甲A183である。
463	陳述書	写し	2021年6月18日	眞野豊	1981年生の、現在教員を務めるゲイ男性の陳述書。 幼少期からの内在化された同性愛嫌悪等により苦しんできたこと、現在は、自身が苦しんだ少年時代を、未来ある若者達が再び味わうことのないようにと、同性愛は特別なことではないというメッセージを送り続けていること。 異性愛のカップルと同様に同性カップルの婚姻を保障することは、性的マイノリティへの差別を解消するためにこそ不可欠であると考え、と述べられている。